

私たちの物語

私の人生と山登り

青山イツさん（82歳）&

大正大学社会共生学部社会福祉学科4年	高石 拓実
大正大学社会共生学部社会福祉学科4年	渡部 颯大
大正大学社会共生学部社会福祉学科4年	石原 怜

私は4人兄弟なのね。それで上に3人。

私は末っ子だったんです。

末っ子の女の子で、まあ可愛がられていて。

私の時代はね、貧しかったけど幸せな時代だったかもしれない。

それでももう両親がとっくの昔に亡くなっちゃっているから

こう抛り所みたいだね、兄たちを思っていたのね。

なんか支えになってたんだけど、1人亡くなり、2人亡くなり、

去年か今年の2月で最後、残ってる1人がなくなっちゃって。

今、完全に1人って感じなのね。

だからここであんしんセンターやなんかに声をかけていただいたりすると、本当にこう、王子来てよかったって思ってるんです。

習字サロンにもね、参加してるのね。

若いときは山に登っていて・・・。

山は40歳過ぎくらいから70歳くらいまではとにかく山ばかり行ってたの。外国の山や、上高地などの山を週に1度歩いて楽しんだのね。

上高地には何回も行ったね

そこから明神池やさらに奥まで行って登ったよ

北アルプスの槍ヶ岳にも行ったよ。

それからね、ハケ岳とか行ったよ

思い出して花の本を見ている。

私の生まれは新潟県上越市（旧高田市）で雪の都って言われたよつた。28くらいのおきに東京に出てきたのかな。

普通に仕事して、大して趣味もなく、みんなでワイワイやるのが楽しくて。ただ、そうやって流れて皆さんのように勉強もしなかったね。

ちょっと仕事が変わって仕事仲間ってというのがいなくなったんです。

一つのお店みたいなところにね。

そこでちょっとお客さんに来た人が

山登りをする人がいてそれからはまっちゃった。

昔はね勤めていた会社でイラン旅行とかあったの、
そういう時にはシンガポールとかタイに連れてってもらって、
一人の時はね、ネパールだっけ山だから
エベレスト、エベレストビューホテルって言って、
三千五、六百メートルのそこかな、
日本人がやっているホテルがあつてそこに行きました。
『山』が違ふんだよね。
外国の山はみんな高くて三千メートルっていったら丘っていうらしい。
いやんなっちゃうよね、
遊ぶっていうか、
楽しむにはやっぱり日本の山の方が楽しめるんだなって思った。
でも行かなかったアルプス、スイスとかもうちょっとお金あったら行けたなあ、
いきたかったなあってちょっと悔いが残って

山の時はみんな男の人たちと一緒に歩いていたからさ。
ほら、男兄弟の仲でしょう。
男ばっか3人だから、男の人と喋るのが割と得意なの。
でもね、そういう仲間がいっぱいたんだけど、それはただの仲間でね。
山へ行けなくなったら連絡も取ることもなくなり、共通の話がなくなって。
だから1人なんだなと思うんだけど、
そんなときいつもあんしんセンターのお姉さんの顔を思い浮かべるわけです。
ありがとう。

令和8年6月11日

